

野生動物による農作物被害を防ぐには

<イノシシ用簡易電気柵の管理>

NO.7

イノシシによる被害を防ぐために、近年急速に簡易電気柵が普及しています。この柵は非常に効果が高く、適切な管理をすることでほぼ確実に被害を防ぐことが可能です。

どのような事項に注意する必要があるのか、ポイントを示してみましょう。

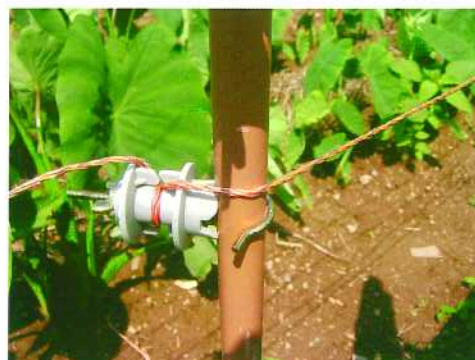
☆電圧

最低でも **1500Vは確保**すること

イノシシが鼻先で電気柵の線にふれる場合、最低 1500V 確保されていないと十分な電気刺激を与えることができません。通常 4000~8000V 程度の電気が流れているはずですから、電圧が低いときには「漏電」「ショート」が考えられます。またバッテリーや電池の劣化による電源部分の問題も考えられます。

【方法】

電気柵専用のテスター(1万円程度)が必要になるので、共同で購入するなどの方法により、必ず入手しましょう。電気が通っていない電気柵はただの線です！



線が支柱にふれてショートしている事例。支柱の内部は金属なので、ガイシの金属留め具(ねじ)にふれてもショートする。

☆線の高さ

2段の場合、**下線は高さ20cm、上線は高さ40~50cm**が目安。**下線は決して地表から25cm以上離さないこと**

イノシシはまず鼻先で電気柵線にさわります。これは安全確認の行動と考えられますが、電気柵の線が30cm以上の高さにあると、安全確認をせずに下をくぐろうとすることがあります。この場合、頭や背中など「体毛」の有る部分が線にふれますが、体毛の電気抵抗により刺激を十分与えることが出来ません。すると次からは平気で柵の下をくぐるようになり、効果は得られません。



線の高さが32cmの柵。下を獣道が通っている。

☆囲い方

圃場は必ず最初から**四方を柵で囲う**こと

イノシシが出てくる山側だけを電気柵で囲うことがありますが、比較的短期間の内に囲っていない場所(例えば舗装道路側)から侵入する事例が多く見られ、効果がすぐに低下してしまいます。

一度侵入され、作物の味を覚えさせると、何とかして柵を越えて侵入しようとするので、きちんと囲った後でも被害が心配されます。

また、それまで舗装道路を歩かなかったイノシシが、何とか圃場に入り込もうと舗装道路を歩ききっかけを作ることにもなります。「舗装道路を歩いても安全だ」と学習させることにもつながり、最終的には被害場所の拡大と人里への慣れを生み出します。